

第1章 基本編

1 大阪市の被害想定

(1) 地震

大地震は明日起きても不思議ではないと言われており、普段から地震災害への備えが必要です。

大阪市に想定される被害

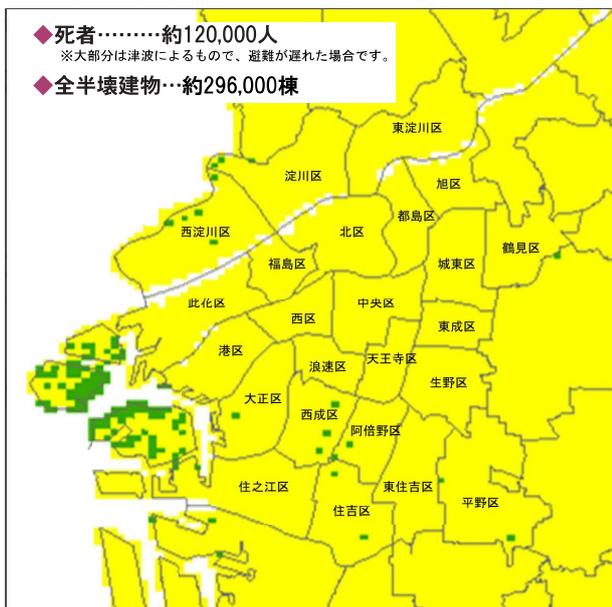
※発生確率は今後30年以内に地震が起こる予測値

震度 震度7 震度6弱 震度5弱
震度6強 震度5強 震度4以下

(「市民防災マニュアル」平成31年3月、大阪市危機管理室)

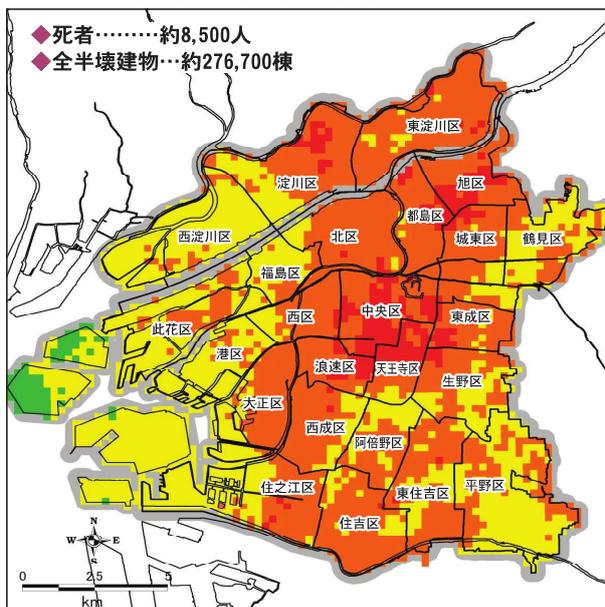
●南海トラフ巨大地震

マグニチュード/9.0~9.1



●上町断層帯地震

マグニチュード/7.5~7.8 発生確率/2~3%(活断層の中では発生確率の高いグループ)



コラム

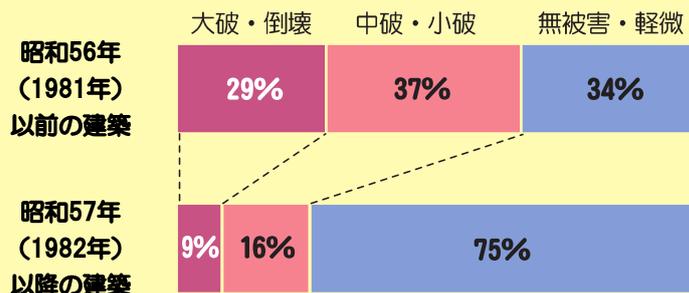
マンションの耐震対策は大丈夫ですか？

○あなたのマンションが昭和56(1981)年5月31日以前の建物の場合には、地震によって大きな被害を受けることが予想されます。

○地震に対する強度がどの程度か、専門家に耐震診断を依頼し、強度が不足していれば耐震改修を行う必要があります。

阪神淡路大震災において、昭和56(1981)年5月31日以前の建物は、大きな被害を受けています。

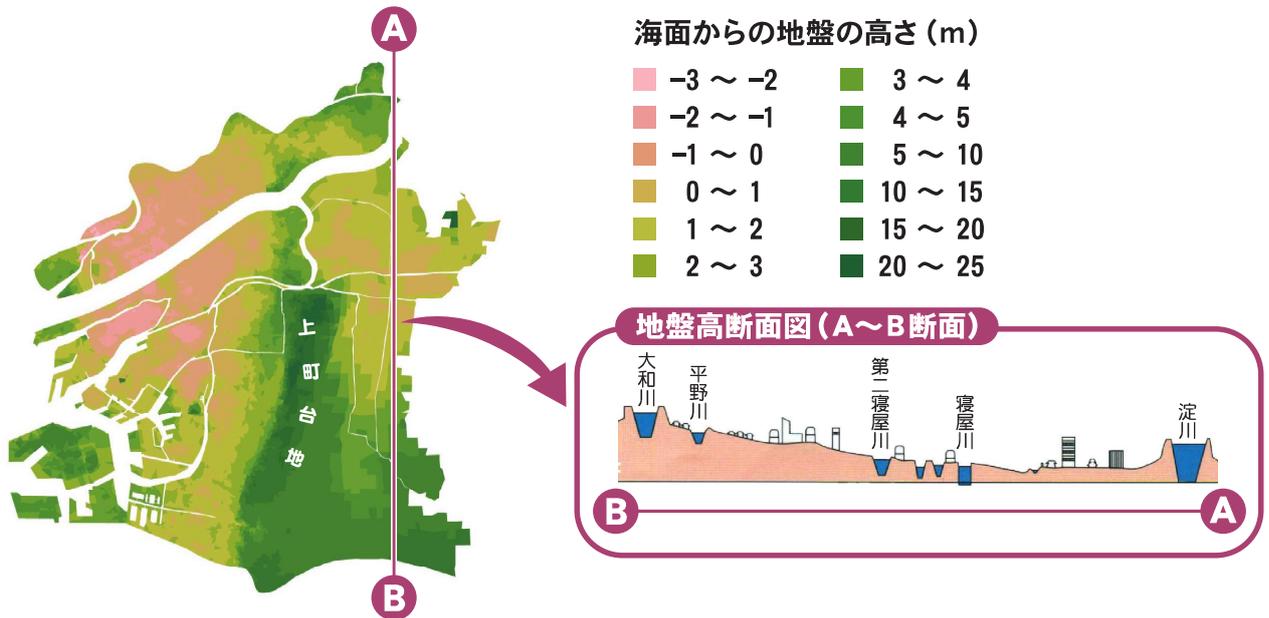
■建築時期と地震被害状況 (JR三ノ宮駅周辺における全数調査)



(「市民防災マニュアル」平成31年3月、大阪市危機管理室)

(2) 風水害・津波

大阪市は、淀川、神崎川、大和川、寝屋川といった大きな河川を有し、また西は大阪湾にも面しています。市街地は概ね平地であり、そのうち海面からの地盤の高さが3m前後の低地が大部分を占めており、大雨、津波による水害に対して非常に弱い地形となっています。



風水害・津波については、台風や集中豪雨によって河川水位が堤防より高くなる河川氾濫、市街地に降った雨水を下水道などから排水することができずに発生する内水氾濫、地震により津波が発生した場合の津波氾濫が想定されます。

(3) 防災マップ

「防災マップ」は各区役所で、「水害ハザードマップ」は各区役所や危機管理室（大阪市役所本庁舎5階）で配布しています。また、「マップナビおおさか[※]」はインターネットを通じて大阪市の施設情報、まちづくり情報などを発信するサービスです。防災情報マップとして、防災関連施設、震度分布予測図、浸水想定区域図が掲載されています。

※ マップナビおおさか

大阪市都市計画局 (<https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity/Portal>)

大阪市の施設情報、まちづくり情報などを発信するサービスです。防災情報マップとして、防災関連施設、震度分布予測図、浸水想定区域図が掲載されています。